

平成30年度政務活動費収支報告書

会派名 無会派

1 収入 政務活動費 120,000 円

2 支出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	13,100	30年7月24日 東近江市視察
	10,624	30年11月12日 飛騨市視察
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
資料作成費		
資料購入費		
合 計		
	23,724	

3 残 額 96,276 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する

H30 政務活動費領収書

領 収 書

No. 211529

張川茂和様

収入  
印紙

¥ 10,000-

(上記の金額の内、消費税額 円を含みます。)

内訳 2/24 JR 八戸市

上記の通り領収しました  
平成30年 11月 7日

秋田県中津川市坂下3098番地  
東美濃農業協同組合  
坂下支店・経理課  
TEL 0573-75-4610 FAX 0573-75-2521

係 印



JAひがしみの

\*上記係印の無いものは無効となります

H30 政務活動費領収書

領 収 証

RK 1170325

弓米川 様

平成30年11月2日



金額										¥	8	6	4	0
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---

(消費税 640 円を含む)  
左記の金額を正に領収致しました。

但し L=Aカー 付

伝票番号	069060225-01	現金	
		小切手	
		カード	¥8640

印  
紙

責任者	担当者印
	

ジャパンレンタカー株式会社

本社 名古屋市中区栄一丁目25-7 ☎(052)221-8461



営業所

ジャパンレンタカー(株)

中津川店

中津川市中津川字新田1307-1  
TEL 0573-66-2825 FAX 0573-66-2826

# H30 政務活動費領収書



領収書

印紙

121282

坂下給油所  
TEL 0573-75-3127  
(株) 宮内石油店  
岐阜県中津川市坂下926-1  
TEL 0573-75-3127

売上 2018年11月12日 14:38

ゲンキンコテイ 様  
現金固定 01-121282-90001-0001-0

出光ゼアス P-3(内)  
12.80 L ¥155.0 1984円

合計 1,984円  
(内、消費税等(8.00%) 147円)

約録 1万円: 8,016円  
5千円: 3,016円  
2千円: 16円

伝No: 10094

## 行政視察報告

- ▶ 実施期日 平成 30 年 7 月 24 日(火)
- ▶ 視察先 滋賀県 東近江市
- ▶ 視察項目 「在宅医療」について
- ▶ 参加者 粥川茂和 (報告者)
- ▶ 視察行程
  - JR 坂下 → JR 名古屋 →こだま 695 号 → JR 米原 → JR 彦根 →
  - 6:10 7:37 7:56 8:27 8:38 8:43 8:54
  - 近江鉄道八日市 → コミュニティーバス → 東近江市役所
  - 9:27 9:40 10:00 11:45
- ▶ 視察費用 JR 券 坂下ー八日市 (往復) 13,100 円

### ▶ 報告事項

#### 1. 医療機関の状況

- (1) 東近江総合医療センター (国立病院機構) Dr45 名 320 床
- (2) 能登川病院 (市立 指定管理) Dr14 名 102 床
- (3) 蒲生医療センター (市立 診療所) Dr4 名 19 床
- (4) 永源寺診療所 (市立) Dr1 名
- (5) あいとう診療所 (市立 指定管理) Dr1 名
- (6) 湖東診療所 (市立 国保) Dr1 名
- (7) 永源寺東部 (出張診療所)
- (8) 長峰 (出張診療所)
- (9) 鋳物師 (出張診療所)

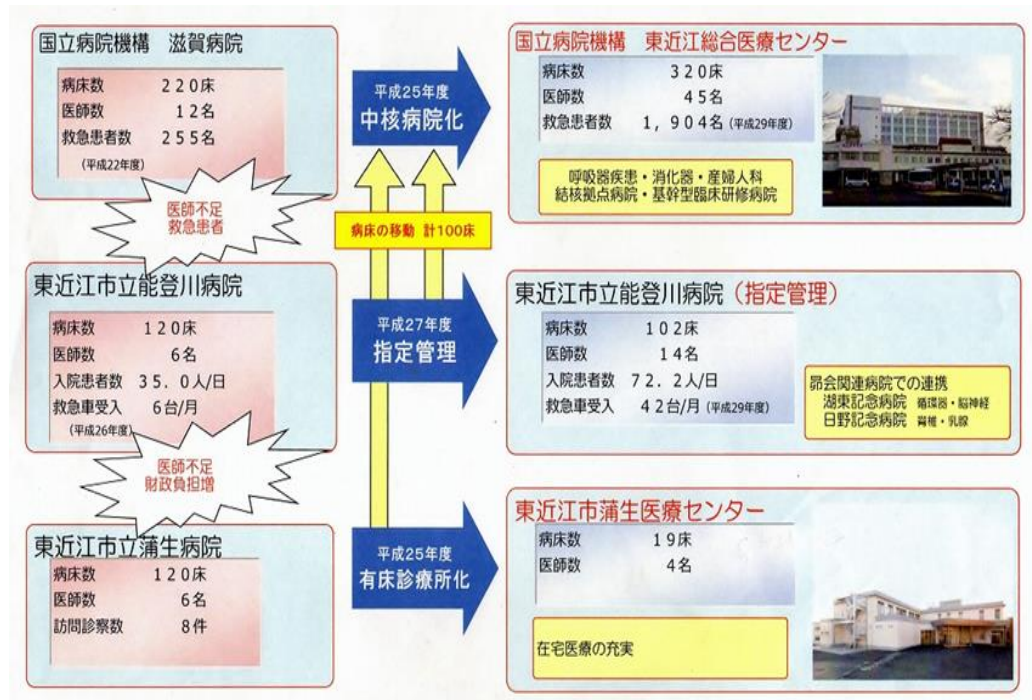
#### 2. 東近江市の在宅看取り状況 (H28.1~12)

- (1) 診療所がある地域が高率である。
- (2) 永源寺地域は花戸医師を中心に活動が活発で、H24 には複数のメディアで紹介された。
- (3) 花戸医師による在宅看取りとは、医薬による病気治療ではなく、安らかに最後を迎えるための医療である。

地区名	人口	高齢者数	看取り場所					在宅看取り率	医療機関
			自宅	介護施設	病院	その他	合計		
永源寺	5,376	1,893	27	10	63	1	101	36.6%	診療所
愛東	4,797	1,501	19	0	43	4	66	28.8%	診療所
蒲生	14,877	3,259	24	5	82	1	112	25.9%	診療所
湖東	8,591	2,493	18	4	73	1	96	22.9%	診療所
五個荘	11,830	3,045	10	8	86	3	107	16.8%	
能登川	23,339	6,129	25	7	169	4	205	15.6%	市立病院
八日市	45,794	10,903	45	10	322	8	385	14.3%	国立病院
総計	114,604	29,223	168	44	838	22	1,072	19.8%	

### 3. 医療再編の推進

- (1) 市内の国公立3病院は、医師不足で二次救急医療が崩壊していた。
- (2) 患者が三次救急に集中し、医師、関係スタッフが疲弊していた。
- (3) 3病院の集約、再編により中核となる病院を整備した。
- (4) 三次救急を担う病院の負担軽減を図った。
- (5) 経緯チャート



(6) 更に包括支援システムの推進により、在宅医療の充実が進んだ。



【写真：左より健康福祉部地域医療政策沢田課長、包括支援C 山川主幹、同村田課長】

#### 4. 地域包括支援センターの体制

- (1) 所管 1＝ 健康福祉部 福祉総合支援課、6 支所にも窓口を設置
- (2) 所管 2＝ 同部 健康推進課で介護予防を担当
- (3) スタッフ＝ 管理者、主任介護支援専門員 4 名、保健師 4 名、社会福祉士等 5 名、介護支援専門員 4 名、相談員 2 名 合計 20 名

#### 5. 地域包括支援センターの業務

- (1) 介護予防支援給付ケアマネジメント  
要支援 1&2 の総計 889 人のうち、直営分は 235 人 (H29.8 診査)
- (2) 総合相談支援
- (3) 権利擁護  
高齢者実務責任者会議を月例開催、医師・弁護士・学識者・在宅介護支援事業所・社協・社会福祉士・保健師・介護予防サービス事業者
- (4) 包括的・継続的マネジメント支援  
医療連携も含めた、多職種協働を進めるため、各種会議を年間 24 回開催
- (5) 在宅医療・介護連携の推進
- (6) 認知症施策の推進  
小中学校への出前講座で、子どもの理解⇒保護者の理解⇒地位の理解

(7) 介護予防・日常生活支援

6. 地域包括支援センターの課題

- (1) 従来の「介護予防」から発想転換し、地域との繋がりを強化すること。
  - ① 社会参加が介護予防に繋がるため、地域特性に応じた仕組みが必要
  - ② 支援対象者の尊厳を守る支援が必要
- (2) 相談者が抱える問題が複雑化している。
  - ① 貧困、人間関係、家族トラブルなど、多様な相談に対応可能なスキルが必要
  - ② 銀行、郵便局、コンビニ、図書館などとの連携が必要
- (3) 要支援者自身に、判断能力が無くなってから相談されるケースが増加中。
  - ① 本人が望む余生の送り方が不明なまま、支援者に判断が迫られる
  - ② 地域内の協力体制が必要
- (4) 無縁死亡者に関する対応
  - ① 故人の状況が不明なまま、病院から早急な対応を求められるケースが増加

7. 三師会による在宅医療・介護連携事業（29年度）

(1) メンバー

医師会、歯科医師会、薬剤師会、福祉総合支援課、長寿福祉課、地域医療政策課

(2) 同行訪問研修会

- ① 目的 スタッフ事業の理解者増大
- ② 期間 9月14日～11月30日
- ③ 対象 医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士等12名
- ④ 場所 診療所、訪問看護ステーション

(3) 市民向け在宅医療講座（6・7・8月）184名参加

- ① テーマ「住み慣れた地域で暮らし続けるために」
- ② 内容 介護予防、病気・看取りのへの対処法など
- ③ 講師 医師

(4) 市民向け在宅医療講座（7月）36名参加



- ① テーマ「みんなで学ぶ認知症の話」
  - ② 内容 地域づくりにより家族への励まし、患者への接し方など
  - ③ 講師 認知症介護指導者
- (5) 市民向け在宅医療講座（2月）50名参加
- ① テーマ「薬の正しい飲み方」
  - ② 講師 薬剤師
- (6) 高齢者ウエルカム事業
- ① 目的 終活の啓発
  - ② 内容 75歳到達者に、集団方式で後期高齢者保険証を交付、保険事業の説明や保険指導を実施。
- (7) 「医療との連携」ワーキング会議
- ① 目的 主治医と介護支援専門員との連携、的確なケアプランの作成、現状課題と解決方策の模索。
  - ② 内容 月例検討会議、地区学習会で地域の関わりの重要性を啓発。
- (8) 多職種連携勉強会
- ① 開催 地区ごと、年間1～12回
- (9) 地域から医療福祉を考えるフォーラム（2月 2時間）
- ① 目的 健康寿命をのばす
  - ② 内容 トークショー「年をとっても元気な人には理由がある」
  - ③ 講師 東京都健康長寿医療センター研究所副所長 新開省三氏
  - ④ 参加者 180人

## 8. 質疑応答

Q 地域包括ケアの推進母体について

A まち協が理想として働きかけている。現在は診療所や支援センターなど、地域によりリーダーが異なる。

Q 独居高齢者の買い物支援の状況について

A スーパー、コンビニの配達サービスで問題なし。通院はコミバス、デマンドTaxiが対応している。

Q 地域包括ケアの完成度検証指標について

A 在宅看取り率、介護予防率などとしているが、介護予防率は地域毎の実績を把握していない。

Q 病院改革と包括ケアの関わりについて

A 行政都合による Dr の異動は不可能、在宅医療推進を前提に有床診療所化を進め市民理解を得た、家庭医の育成が急務だ。

Q 在宅看取りの対応時間について

A 診療所も 24 時間体制だ。末期がん患者は入院するし、老衰は静かな最期で翌朝に連絡など、家族と医師の打ち合わせ通り、夜中の往診はほとんどない。

## 9. 所感

- ◎ 特養など市民レベルでの包括ケア推進がなされており、行政の啓発活動の必要性を感じた。
- ◎ 多職種連携が確立、地域毎に在宅医療の完結がなされ、特に情熱医師在勤の永源寺地域はうまく行っている。
- ◎ 2025 年問題など市民の理解を深め、地域事業として完成度を高めていくとし、在宅看取り率及び、介護保険を利用し入院も 30 日程度で最期を迎える率を高めようとしている。
- ◎ 東近江で出来て、中津川市に出来ないことは無いと思う。

## 行政視察報告

- ▶ 実施期日 平成 30 年 11 月 12 日（月）
- ▶ 視察先 岐阜県 飛騨市
- ▶ 視察項目 「障害福祉政策」について
- ▶ 参加者 粥川茂和（報告者）
- ▶ 視察行程
  - 中津川市内 → 国道 41 号 → 古川駅前（泊）  
16:00 19:00
  - 飛騨古川町総合保健福祉センター → 国道 41 号 → 中津川市内  
9:00 11:00
- ▶ 視察費用 レンタカー 8,640 円 同燃料代 1,984 円 合計 10,624 円



- ▶ 報告事項
  1. 飛騨市の取組状況
    - (1) 障がい児者の福祉施策を進める理念をまとめ「飛騨市障がい児者支援ビジョン」とし、福祉計画の骨子とした。
    - (2) 同ビジョンに基づき「生涯安心計画」（H30~32 年度）を策定、福祉施策の数量目標とした。
  2. 飛騨市障がい児者支援ビジョン
    - (1) 継続的な支援体制の整備

乳幼児期から高齢期まで、支援が途切れることなく「継続」して受けられる体制をつくる。

(2) 医療機関の整備

児童精神科診療所「こどものこころクリニック」の開設、医師、臨床心理士、精神保健福祉士などの専門職を配属している。中津川市は大湫病院対応のため、待機児童が多い。

(3) 子育てから療育への支援

① 療育へのつなぎ

多様な子どもの成長過程で支援の必要性を見極め、発達を即してゆく。

② 保育の充実・統合保育の実施

支援が必要な園児のため保育士を加配、園内で行うことで幼児間に障がいについての理解が深まる。

③ 障がい児通所支援・児童発達支援の充実

小学校就学前の子どもが主な対象で、自立支援や機能訓練などを行う（法廷事業）を充実のため、新築移転する。

(4) 学齢児への支援

① 障がい児の放課後等の支援

放課後デイサービスと放課後児童クラブの連携で、支援ニーズに対応可能とする。

② 普通学級児への支援

普通学級の児童にも学習能力などの支援ニーズがあり、学校や放課後の支援を実施する。

③ 不登校・引きこもり等への支援

「こころのクリニック」を活用し、自宅以外にも、安心できる場所を確保する。

④ 通学等の支援

車椅子対応のスクールバスや、通学に保護者の付き添いが必要な児童にニーズ対応で、保護者の負担軽減。

(5) 就労支援と社会参加

① 学校と事業所の連携

市内特別支援学校生徒の、実習や就職先を増やす。

② 就労移行支援事業所の誘致

就労定着支援サービスを訓練等給付に加える動きのあり、有効性を見極めて誘致する。

③ 社会生活支援

休日や昼間の居場所づくりで、余暇の過ごし方や保護者の息抜きの時間をつくる。

法定サービス補完目的の地域生活支援事業（国）でもカバーできない事項は、市の独自施策で行う検討。

④ 障がい福祉サービスの拡充

- ▶ 引き隠り者や種々のサービスに馴染めず、個別支援が必要な方のため新築同施設は、制度の対象者以外も利用可能とし、既存制度で対応できないサービスを提供する。
- ▶ 重度障がい者等のサービス制限、経済負担緩和策、65歳以上への円滑介護保険サービスの利用支援。

⑤ 多様な産業との連携

障害者の職業選択肢を広げるため、商品開発や業務発注企業を支援する。

(6) 社会生活の支援

① 生活の場の確保

健常者は当たりまえの「一人暮らし」を可能とする「障がい者グループホーム」を市が開設する。

② 生活の支援

賃貸住宅への入居手続き、判断能力が不十分な人の権利を守り、日常的金銭管理支援する事業の実施検討。

(7) 共生のまちづくり

① 障がいの理解

障がいに対する市民理解啓発活動の継続、支援諸施策充実のための見直し。

② バリアフリーのまちづくり

生活環境の整備は障がい者、高齢者、子どもにも住み良いまちとなる。

③ 災害時の対応

安全な避難、避難所生活での安心を支援する。

④ 社会参加の促進

スポーツ、文化活動の普及

⑤ 既存の制度、サービスの見直し

障がい福祉サービス制度の見直しは頻繁に行われるため、代やニーズに合ったサービスに改正する。

(8) 細やかな支援の実施

支援は法に定めにより市が施策を実施しているが、制度化の遅れや支援サービスの不足などの課題を把握して補完する。

3. 質疑応答

Q 「こころのクリニックについて」の設置理由について

A 初診だけでも2時間など診察に長時間を要し、患者は半年～10か月の順番待ちで不都合を感じていた。

A 患者のみならず、親や学校教員の訓練も必要で総合的な治療対応を行っている。

Q 障がい児者支援施策優先を考える市長による取り組みの特徴について

A 障がいの有無を超越し、住み難さ、生きづらさをクリアする発想で策定している。

Q 支援学校卒業後から、老人介護までの支援サービスについて

A 支援学校を不登校のまま卒業した方も含め、支援サービスを強化しているが、未だ不十分で今後も進めていく所存だ。

Q 就労支援について

A 一般就労が継続できない障がい者は、心身体調管理を自己完結できない場合が多いため、これらに対処する支援を進めており、雇用事業所への賃金助成金などは未実施である。

#### 4. 所感

- ② 飛驒市長は県職員時代も福祉行政に関わり、現職就任後も障がい福祉施策の充実を公言、同施策を優先上位に位置づけておられるようだ。
- ② このことは「障がい児者支援ビジョン」の策定に表れており、「こどものこころクリニック」や「市設グループホーム」の設置などは、当市をはじめとする一般的な市行政では実現していない。
- ② 同ビジョンは「健常者の生活が前提の社会では、障がい児者の暮らしに困難が多い」「障がい児者には誰もがなり得るもの、市民全体の問題として取り組むべき」とし、「日本一、障がい児者にやさしいまちを目指す」とまとめている。

## 中津川市と飛騨市の比較（障がい福祉）

### 1. 障害者手帳所持者数比較

年度	身体		知的		精神		計	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
H24	3,921	1,385	609	204	406	129	4,936	1,718
H25	3,904	1,410	630	210	445	135	4,979	1,755
H26	3,884	1,417	645	223	485	145	5,014	1,785
H27	3,767	1,385	660	230	524	154	4,951	1,769
H28	3,678	1,355	677	235	558	160	4,913	1,750

### 2. 障害福祉サービス

(1) 訪問系サービス	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①居宅介護	人分 55	35	42	37	42	37
	時間分 472	525	444	555	444	555
②重度訪問介護	人分 3	0	4	0	6	0
	時間分 1,508	0	1,557	0	2,920	0
③同行援護	人分 4	4	4	5	4	8
	時間分 82	21	88	30	88	160
④行動援護	人分 0	0	0	0	0	0
	時間分 0	0	0	0	0	0
⑤重度障がい者等包括支援	人分 0	0	0	0	0	0
	時間分 0	0	0	0	0	0

(2) 日中活動系サービス	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①生活介護	人分 154	85	147	86	145	94
	時間分 3,281	1,779	2,992	1,757	2,871	2,068
②自立訓練（機能訓練）	人分 0	0	0	0	0	0
	時間分 0	0	0	0	0	0
③自立訓練（生活訓練）	人分 4	2	4	3	3	6
	時間分 62	19	51	57	33	132
④就労移行支援	人分 18	4	13	5	15	10
	時間分 355	71	259	44	267	220
⑤就労継続支援（A型）	人分 83	20	88	21	91	12
	時間分 1,775	422	1,616	427	1,661	264
⑥就労継続支援（B型）	人分 149	36	163	35	145	43
	時間分 2,475	574	3,001	565	2,465	946
⑦療養介護	人分 5	8	5	8	5	8
⑧短期入所	人分 23	6	21	6	23	1
	時間分 104	67	114	38	114	1

(3) 居住系サービス	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①共同生活援助	人分 42	14	40	13	41	18
②施設入所支援	人分 119	55	110	58	110	53



(4) 相談支援	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①計画相談支援 人分	85	190	67	201	68	60
②地域移行支援 人分	0	0	0	0	0	4
③地域定着支援 人分	0	0	0	0	0	0

### 3. 地域生活支援事業

(1) 必須事業	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①相談支援事業 箇所	6	3	6	3	6	3
②成年後見制度利用支援事業 件数	1	1	2	1	2	4
③意思疎通支援事業 件数						
手話通訳者派遣事業	111	127	152	104	148	110
要約筆記者派遣事業	32	3	23	4	20	10
手話通訳者設置事業	1	0	1	0	1	0
④日常生活用具給付等事業 件数						
介護・訓練支援用具	7	1	7	0	6	7
自立生活支援用具	11	0	8	2	12	10
在宅療養等支援用具	20	5	17	2	13	10
情報・意思疎通支援用具	15	3	11	4	9	12
排泄管理支援用具	2,040	557	2,011	579	1,900	588
住宅改修費	5	0	3	0	0	1
⑤手話奉仕員養成講座 名	4	-	8	-	6	-
⑥移動支援事業 人分	11	25	17	99	21	22
件数	1,238	1,560	1,732	909	1,800	750
⑦地域活動支援センター 箇所	1	0	1	1	1	1

(2) 任意事業	H27年度実績		H28年度実績		H29年度計画	
	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市	中津川市	飛騨市
①身体障害者福祉ホーム事業 人	1	3	1	2	1	3
②訪問入浴サービス事業 人	10	0	9	1	9	1
③日中一時支援事業 人	83	57	87	54	86	62
④生活サポート事業 人	0	0	0	0	0	1
⑤障がい者デイサービス 人	0	9	0	11	0	3
⑥社会参加促進事業（運転免許）	7	1	7	1	5	2
（自動車改造）	6	1	5	1	2	2

※障害福祉計画及び障害児福祉計画による。